031210

校長講話「いじめについて考える（世界人権デー）」

今日は、世界人権デーです。人々が、互いに思いやりを持ち、だれもが大切にされる世界にすることを誓う日です。そこで、今日は、いじめについて話します。

まず、「いじめる」とは、どんなことを言うのでしょう？考えてみてください。考えましたか？私は7つ考えました。

① 本人がいやがるあだ名で言う。
② 失敗や人と違っていることをばかにしたり、笑ったりする。
③ 無視したり、遊びやチームに入れなかったりする。
④ たたく、蹴る。
⑤ 「死ね」「よわむし」「きもち悪い」「ばか」などの悪口を言う。
⑥ お金や物を持ってこさせる、ものを借りても返さない。
⑦ 恥ずかしいこと、いやなことを無理矢理させる。

他にもあるでしょうか。最近では、インターネットのゲームや、スマホのラインなどで、いじめが起きています。みなさんは、どうですか？いじめをしたり、いじめられたりしていませんか？

「いじめ」は、相手の心を突き刺す弓矢だと聞きました。そうだとすれば、いじめられた人の心はどうなってしまうでしょう。

（ここで、下のイラストを子どもに見てもらいます。）

絵のようにたくさんの矢が刺さって、心が破裂してしまうかもしれません。だから、心が壊れてしまう前に、いじめの矢を抜かなければいけません。

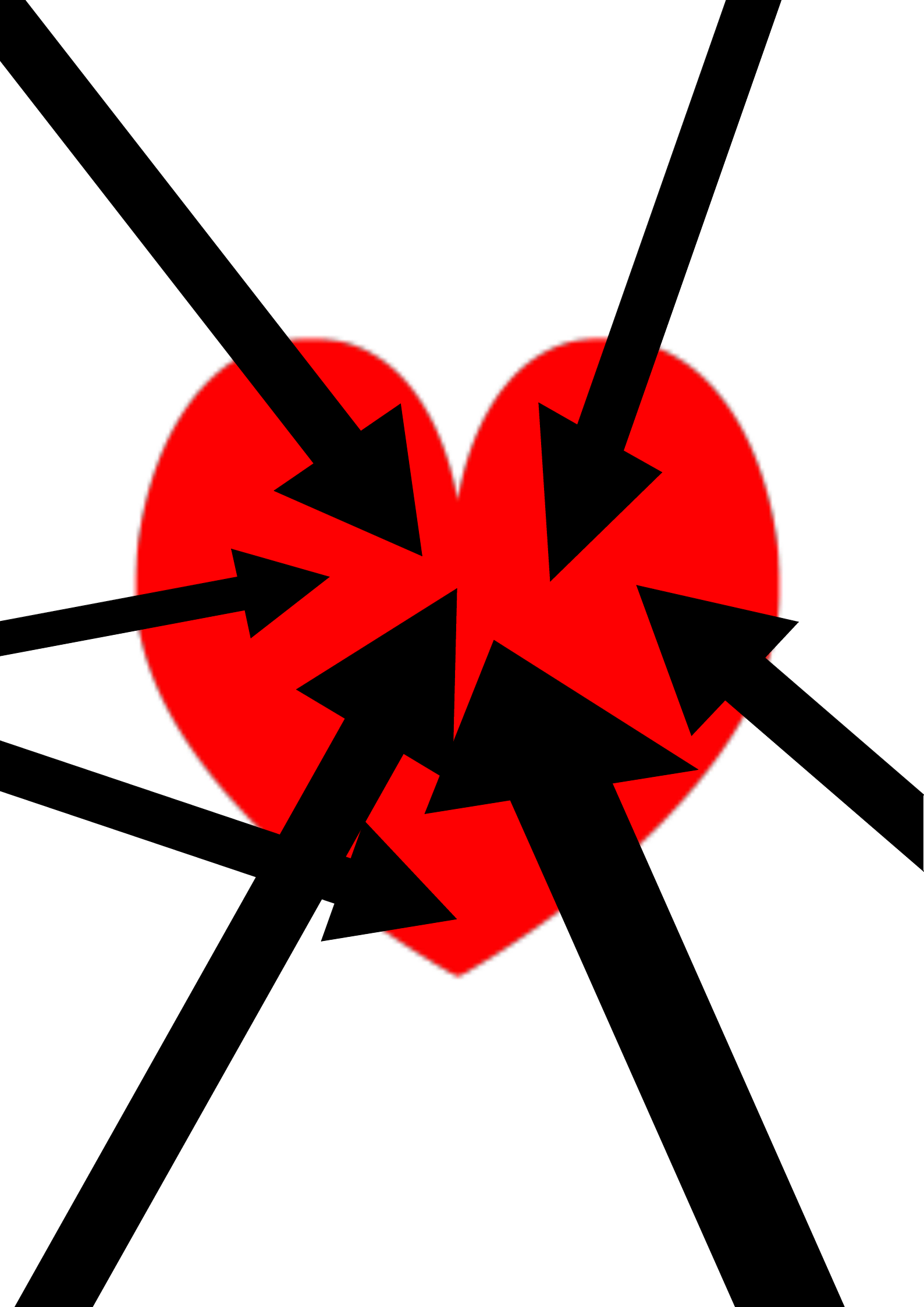
でも、いじめられて心が弱っている人が、自分で抜くことができません。では、どうしたら矢を抜くことができるでしょう？

いじめをした人が悪いことに気付いて、「ごめんなさい」、「もう二度としないです」と謝まることができたら、すぐに抜けるかもしれません。でも、すぐに謝ってもらえないときは、どうしますか？おうちの人、先生、信頼できる大人の人に話をするのもいいです。また、周りの人が助けることもできます。

たとえば、いじめに気付いた人が、「ひどいね。でも、大丈夫だよ」「一人じゃないよ」「ぼくも一緒にいるよ」と、声をかけてくれたらどうでしょう。きっと、矢は小さくなり、簡単に抜けると思います。みんなが、温かい言葉をかけてくれれば、矢が抜けるだけでなく、いじめている人も、いじめをやめると思います。

ただ、いじめの矢が抜けても、矢が抜けた後には大きな穴が残ります。長い時間が過ぎても、いじめられたことを忘れることができない人もいるのです。だから、いじめは絶対にしてはいけないのです。

この言葉は、悪口かな？こんなことしたら、相手は嫌かな？と、相手を思う気持ちを持ちましょう。そして、困っている人やつらい人を見たら、優しい言葉をかけてください。

松山小では、全員が思いやりの心を広げて、いじめが起きない学校にしていきましょう。

これで、校長先生の話を終わります。